01 / 想いをたどる ・ その原点

父と作った、
あの日の一台。

古い模型を、なぜ作り直さないのだろう。

作業机のそばに、小さな飛行機のプラモデルがある。子どもの頃、父と一緒に作った一台だ。いま手に取れば、塗装のむらも、部品の少し曲がったところも見えてくる。上手に作れた作品とは、とても言えない。

でも、その不器用さがいい。説明書を二人でのぞき込んだこと。細かい部品をなくさないように気をつけたこと。思うようにできず、父の手を借りたこと。一つずつ形になっていくたび、何か特別なものができあがる気がしたこと。あの模型を見ると、そんな時間がふっと戻ってくる。

いまなら、もっときれいに作れると思う。道具も知識も、あの頃よりずっとある。それでも、作り直したいとは思わない。上手に仕上げることが目的なら、もう一度作ればいい。でも、あの一台は、それとは違う。

父と並んで座った時間も、少し背伸びをしていた自分も、初めて「作ることは面白い」と思った瞬間も、あの出来のまま残っている。手を加えれば、何かが消えてしまうような気がする。

> **残しておきたいのは、完成度ではない。**
> **あの日、夢中になれた自分の時間だ。**

01 / 想いをたどる ・ これから

好きなことのそばで、
どんな毎日を過ごしたいか。

「模型店を持ちたい」という言葉の、もう少し奥にあるもの。

模型は、ただ棚に並べて眺めるものではない。箱を開け、部品を並べ、少しずつ手を動かす。その途中に、考える時間がある。うまくいかない日もあるけれど、次はこうしてみようと思える。できあがった一台だけでなく、作っている時間そのものが好きなのだ。

そんな時間を、これからの暮らしの真ん中に置いてみたい。慌ただしく何かをこなすのではなく、今日はどこを作ろうかと考えて一日を始める。好きな模型に囲まれ、長く使った道具がいつも手の届くところにある。そういう場所があったら、どんなにいいだろう。

けれど、作るだけなら家でもできる。なぜ、わざわざ「店」なのだろう。きっと、そこには誰かが訪ねてくる余白が欲しいのだ。模型を見て立ち止まる人がいる。昔作った模型の話が始まる。ときにはお茶を一杯飲みながら、失敗した話で笑う。買い物をしてもしなくても、同じものを好きな人と少しの時間を分け合える。

そのとき、父に教わった楽しさを、今度は自分が誰かに話しているかもしれない。あの日の模型と、これから出会う誰かが、同じ場所にいる。そんな一日を思い浮かべると、「店を持ちたい」という言葉が少しずつ自分らしい形になってくる。

> **売るためだけの店ではなく、**
> **好きな時間を続け、誰かと分かち合える場所が欲しい。**

02 / 構想の核を定める

夢を、一つの構想に。

思い出を振り返ることから、これからの場所を設計することへ。

主人公が欲しいのは、模型を大量に販売する店ではない。**「自分が模型を作り続けること」と「好きな人と語り合えること」が、自然に同居する小さな模型店**である。

店のコンセプト

作る楽しさを、
つくる人と訪ねる人で分かち合う店。

想いが、店づくりの判断になるまで

原点

父と模型を作った時間を、今でも大切にしている。

いまの願い

自分の手を動かす時間を、これからも暮らしの中心に置く。

店で広がること

同じ趣味の人と、作品や思い出を分かち合う。

この構想が求める、3つの設計方針

作れること　客がいない時間を「空白」ではなく、主人公が模型を作る大切な時間にする。

話せること　作品をきっかけに、短い会話からお茶を飲む時間まで自然に生まれる。

続けられること　販売と費用を無視せず、好きな時間を失わない規模で組み立てる。

店の規模も、場所も、お金の使い方も。
この3つを壊さないことから考える。

03 / 構想を組み立てる

4つの営みを、ひとつの店に。

「制作・展示・交流・販売」が、競合せずに支え合う仕組み。

売場を広げるほど、作業や会話のための場所は狭くなる。だから最初に、何を中心に据えるかを決める。主人公の構想では、中心は「制作」。その周囲に展示と交流があり、販売は店を続けるための一つの働きを担う。

模型店を成り立たせる関係図（構想段階）

展示する
作品や模型を見て、興味が生まれる。

制作する〈中心〉
主人公自身の「好き」を毎日続ける。

語り合う
興味が会話に変わり、思い出がつながる。

↓　作る・見せる・話すがつながる　↓

必要な品を販売する
模型・工具・塗料などを選んで扱い、店の継続にもつなげる。

組み立てで優先する順序

優先	決めること	判断の基準
第一	作業机と手を動かす時間	模型制作が無理なく続けられる
第二	展示棚と語らう席	会話のきっかけが生まれる
第三	商品点数と販売面積	無理な仕入れで圧迫しない

これは販売を軽視する計画ではない。販売を主役にすると主人公の夢が変わってしまうため、「何を守る店なのか」を先に決める設計である。

04 / 場所を選定する

店に合う場所は、どこだろう。

立地を「集客の良さ」だけで決めず、過ごしたい時間から選ぶ。

主人公が求めるのは、静かに作業し、訪れた人と無理なく話せる店。広い商圏や人通りを最優先にすると、家賃や営業時間の負担が増す可能性がある。だから**落ち着き・通いやすさ・家賃・作業環境**の釣り合いから候補を絞る。

立地の3案を、夢との相性で比べる

場所の性格	この夢との相性	確認すべき点
A｜住宅地に近い静かな通り	落ち着きやすく、小さな交流の場に向く可能性。	来訪のしやすさ・看板・近隣配慮。
B｜駅前・商店街	立ち寄りやすいが、売場効率や家賃の圧力が高まる可能性。	家賃・人流・賃貸条件・騒音。
C｜郊外の小さな店	ゆとりをつくりやすい場合がある。	駐車場・交通手段・長期の集客。

候補物件を実際に見たときの「選定図」

① 費用
家賃と契約条件は、無理なく持てる範囲か。

② 広さ
机・棚・小さな席・通路が収まるか。

③ 環境
換気、照明、騒音、塗料の扱いは可能か。

④ 来訪
初めての人も迷わず訪ねられるか。

> 「よく売れる場所」より前に、
> 「この時間を続けられる場所」を探す。

※立地比較は検討の考え方。実在する物件・賃料・商圏調査に基づく評価ではありません。

05 / 空間の形を描く

頭の中の店を、
間取りにしてみる。

10坪・約33㎡という仮の広さで、何をどこに置くかを考える。

場所の大きさを仮に決めると、夢は急に具体的になる。販売棚ばかり置けば、模型を作る机とお茶を飲む席がなくなる。そこで、売場だけでなく**過ごしたい時間に合わせて面積を配分**する。

10坪・約33㎡の空間構成例（寸法を示さない概念図）

展示・販売　11㎡

作品を見せる棚／選び抜いた模型・道具

制作　7㎡

作業机／工具／換気などを検討

談話　5㎡

小さな二人席／模型を囲む会話

収納・会計　4㎡

在庫／包装／レジ周辺

入口 → 通路・動線　6㎡

歩きやすさと模型を眺める余白

入り口からの体験を組み立てる

見る
棚の作品が目に入る

›

気づく
主人公が作業している

›

話す
作品や思い出を語る

古い飛行機の一台は、商品としてではなく、作業机から見える場所に置く。父との時間を大切にするという想いが、店のレイアウトの小さな決定にも表れる。

※面積は合計33㎡の仮配分。物件の形状、避難経路、換気、作業の安全性などは別途確認が必要です。

06 / 一日の営みを設計する

商売をしながら、好きな時間を守る。

商品、営業時間、会話のあり方を、無理のない大きさから考える。

店を持つことは、好きなことだけをしていられるという意味ではない。仕入れ、清掃、支払い、接客がある。だからこそ「作る時間」を偶然残すのでなく、**最初から日々の運営に組み込む**。

一日の運営案（週4日営業・11時〜18時、すべて仮設定）

時間	店で行うこと	主人公の想いとの関係
10:00–11:00	清掃・棚の整理・準備	道具に触れ、気持ちを整える。
11:00–13:00	開店・作業・販売対応	接客可能な範囲で制作を続ける。
13:00–16:00	商品を見る・作品を話す	来訪があれば、会話を楽しむ。
16:00–18:00	制作・補充・会計・閉店	作りかけの続きを翌日に残せる。

「何をするか」と同じくらい、「何をしないか」

商品を絞る
好きで説明できる模型・道具を中心に、小さく仕入れる。

予定を詰めない
交流や制作の時間を奪う催しを最初から増やさない。

売上だけで測らない
喜びと継続に必要な費用の両方を確かめる。

> 「今日は売れたか」と同じくらい、
> 「今日も模型を好きでいられたか」を大切にする。

※営業時間、商品構成、販売数は仮案。実際の接客・仕入れ・制作の両立は試行して調整します。

07 / 実現条件の見取り図

場所とお金で、夢の輪郭を確かめる。

夢を諦めるためでなく、どの規模なら望む時間を守れるかを知る。

仮に置く条件　広さ：約33㎡ ／ 家賃：月8万円 ／ 小規模・一人運営 ／ 週4日営業
いずれも架空の試算条件。物件確認・実見積もりは行っていない。

始めるために必要な金額のイメージ

約240万円

開店準備180万円 ＋ 運転予備資金60万円

開店準備の内訳（仮）	金額
物件契約関係	48万円
小規模な内装	25万円
棚・机・椅子	30万円
照明など	9万円
最初の商品仕入れ	35万円
工具・備品	7万円
看板・案内	6万円
会計・通信環境	5万円
その他の準備	15万円
準備費用　計	**180万円**
運転予備資金	**60万円**

毎月必要となる金額のイメージ

約14.5万円

固定的な経費11.5万円 ＋ 補充仕入れ3万円

月額費用の内訳（仮）	金額
家賃	8万円
光熱費	1.5万円
通信費	0.5万円
保険・その他	1万円
消耗品	0.5万円
商品の補充仕入れ	3万円
合計	**14.5万円**

まず分かること

賃料が継続費用の大きな部分を占める。場所選びが、好きな時間を守れるかに直結する。

金額から考え直すこと

資金が合わなければ、もっと小さな物件や共同スペースから試す選択肢もある。

まだ答えが出ていないこと

商品がどれだけ売れるか、本人の生活費をどう賄うか、資金が続くかは別途検討する。

※経費は概算の例示で、調査済み価格ではありません。税・社会保険・本人の生活費・借入返済・追加修繕等は含みません。仕入れは販売量に応じ変動します。経営の成立や開業可能性を保証する試算ではありません。

08 / 実現までの道筋

何から確かめ、
どこで決めるか。

夢を一度に実行せず、「確かめながら形を選ぶ」順序を設ける。

すぐに契約や仕入れをするのではなく、主人公が望む時間が本当に成り立つかを、小さな行動から確かめる。
その結果に合わせて、店の広さ・場所・予算を変えてよい。

段階ごとの「すること」と「次へ進む条件」

1

頭の中の店を一枚に描く

制作・展示・会話・販売の優先順位を決める。
次への条件：何を守る店か、自分の言葉で説明できる。

2

小さく体験を試す

作品展示や趣味仲間との交流など、店を借りずに試せることから始める。
次への条件：実際に続けたい時間の使い方が見えてくる。

3

候補地と金額を確かめる

物件を見学し、契約条件・設備・見積もりを集めて仮予算を更新する。
次への条件：場所と費用が本人の許容範囲に収まる。

4

始め方を決める

小さな店舗・間借り・期間限定などから選ぶ。必要な手続きや安全面を確認する。
次への条件：続ける負担を理解し、本人が選べる。

5

開いてからも調整する

作る時間が減っていないか、費用が過大でないかを見直す。
次への条件：好きでいられる店の形を、無理なく保てる。

> **進むことだけが前進ではない。**
> **望んだ時間を守るために、規模を変える判断も大切だ。**

※事業性の検証、法令・許認可・契約・会計の詳細は、実行を選ぶ段階で別途確認する。

09 / 構想を、一枚に束ねる

あの日の一台から、これからの一日へ。

想いが、空間・お金・進め方の選択につながった。

この夢を形にするために、組み立てた答え

大切にした想い	企画にした答え	確かめること
模型を作り続けたい	中心に制作スペースを置き、作る時間を運営に組み込む。	換気・作業環境・時間配分
思い出を残したい	父と作った一台を、いつも目に入る棚に置く。	保管・展示方法
誰かと語り合いたい	小さな談話席を設け、作品が会話の入口になる配置をつくる。	席数・来訪者との距離感
好きなことを守りたい	商品点数と店の規模を抑え、無理のない場所・費用を探す。	物件・予算・継続の見込み

構想は、こうして現実の輪郭を持つ

想いを読む
何が大切か

›

仕組みにする
何を組み合わすか

›

条件に置く
場所とお金

›

試して選ぶ
どこから始めるか

いつか、店の奥の机で模型を作っている。誰かが古い飛行機に目を留める。そこから始まる会話の中で、ふと父との時間を思い出すかもしれない。

ただ夢を美しく語るだけでは、そこへは近づけない。作業机を置く広さが要る。人を迎える席が要る。場所を選び、お金を見積もり、小さく確かめる手順が要る。そうした一つひとつは、あの日の楽しさをこれからの暮らしへつなぐための選択なのだ。

> **作りたいのは、模型を売るだけの店ではない。**
> **「好き」を、続けられる毎日だ。**

※架空の人物・条件による制作サンプルです。費用や場所は未検証の仮設定であり、事業計画ではありません。